



ファミケア 通信



vol. **14**
2018.3.20 発行

障がい者支援施設「ひまわり社」が10周年を迎えました。春には恒例のお花見に行きます。増田の真人公園（写真）に行った時には、晴天で満開の桜を堪能しました。

『福祉の春』を迎えるために・・・



社会福祉法人
ファミリケアサービス
理事長 阿部 脩二

ようやく春がやってきたようです。

この冬はちょうど節分の頃になって、これまでにあまり例のないような強い寒波が来襲し最低気温がマイナス十七度を記録するなど、連日の低温と降雪で豪雪となり、近年にない厳冬で市民生活に大きな衝撃を与えました。

とき弥生に入って、ようやく異常な深雪から脱出することができたようです。

白い季節は天の恵みなどといった優雅な雪見の風情を楽しんでいられる程度の降雪ならよいものの、本当に大変な今冬でした。

雪国の宿命とはいええども、まさに人手のない少子・高齢化社会の中で、長い冬季間の暮らしは、市民生活にとって心身的にも経済的にもそれぞれ大変な負担となっていることではないでしょうか。

とくに私どもの仕事は社会的弱者といわれている高齢者をはじめ、支援を必要とされる母子家庭・児童養護・障がい者など福祉の手を

さしのべなければならぬ仕事を担っている事業にとっては冬季大雪への対応や、今冬猛威をふるったインフルエンザへの対応など通常の社会生活とは異にした加重的負担が伴います。

さて、今日社会的な課題となっている人手不足は今後もますます進行することは福祉業務の現場にとっては、きわめて深刻な事態となっておりま。

人材不足の対応はロボットで解決するなどよくいわれていますが、はたして大丈夫でしょうか。生きている人間への対応をロボットで扱える範囲は相当限られるものではないかと考えられます。物を生産する工程や物の仕分け

など物理的な分野での仕事はロボットの活用が効果的としても、福祉の仕事のおおむねは物扱いではなくして人さまを相手に人間本来の尊厳にかかわる仕事なので、人を物扱いによって対応するようになったときは、真に心のかような福祉といわれてもはたしていいかなものでしょうか。

人手不足を単に働き方改革だけで解決できる課題ではないと思われま。

今日ではロボットや人口知能などの高度な最新技術の進化はすばらしいものですが、人手不足の社会のなかでどう立ち向かっていったらよいものか、みんなで知恵を出し合って真剣に考えなければならぬことです。

全国一の少子・高齢化県である秋田は、『少子・高齢化特区』として国の指定を受けて、全国にさがけて、住みよい暮らし良い少子・高齢化社会の構築に英知を集めてとりくまなければならないことで、国・県・市町村それぞれ三分の二の財源を出し合って、既成概念にとらわれず新たに大胆な試行策を実践して見る必要があるのではないのでしょうか。

社会福祉の推進は個々の問題ではありながら社会全体で考えなければならぬことで、福祉事業関係者と行政がもっと積極的にかかわらなければならない課題です。

この世に生を受けたかぎり『生きること・老いること・病むこと・死ぬこと』は老若男女・貧富貴賤の別なく人だれもが避けて通れない全ての人間にかかわる命題です。ので人ごとではなくして各々自分のことと考えて、真の福祉とは何かを問い直してみなければならぬことです。

この会報がみなさんの手許に届く頃は、冬將軍さまの相伴をされてきた大雪の白魔も眩いほどの春光にはかなわず、すっかり姿を消していることでしょう。

ひまわり社十周年を迎えて

平成十九年四月十日、暖かい陽射しが差し込む中ひまわり社の開所式が行われ男性六名、女性一名、職員三名からスタートしました。

開所に際しては、当時横手養護学校（現、横手支援学校）生徒のご家族の皆様、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力を賜りました。今では横手市に福祉サービス事業所が多数存在していますが、その頃は通所事業所が少なく、卒業しても利用できないのではと心配されたご家族の方々が、陳情等の活動をされました。同時に、元神産婦人科の神先生より医院の建物を福祉のために利用してほしいとの申し出があり、ご縁があつてひまわり社が開設されました。

平成二十五年二月には相談支援事業を開始しました。自宅にいらっしゃる方の福祉サービス利用を始めるお手伝いや、その他必要な情報の提供等、また、その後



障がい者支援施設 ひまわり社

の定期的な様子確認、困りごと等の相談にも相談支援専門員が対応しています。

ひまわり社の由来は「ひまわり」は太陽に向かって咲くイメージと、「社」は会社の社をイメージし社会の一員として働く人達という思いを込めています。

毎日、笑ったり、時々怒ったり泣いたり、予想外のこともありますが、毎日ひまわりの様に明るく、笑顔が絶えない一日を、そして自分の出来ることが少しでも増え自信につながればと思います。ながら日々お手伝いしています。

これから五年先、十年先も変わらず笑顔の交差点でありますよう、温かく見守ってくださいませようお願いいたします。

事業所

たより

『月に一度の風呂の日』

特別養護老人ホーム すこやか森の家

シヨートステイ・デイサービス

センターすこやか森の家では、毎月二十六日を『風呂の日』とし、いつもとは異なる雰囲気や材料のもとで入浴して頂いております。

毎月一回季節に合わせて、入浴を楽しんで頂けるよう職員が知恵を絞って企画しています。

五月は菖蒲湯、あじさいのきれいな六月は浴室にあじさいを配色、十二月は冬至に合わせてゆず風呂をご用意

ご提供致しました。

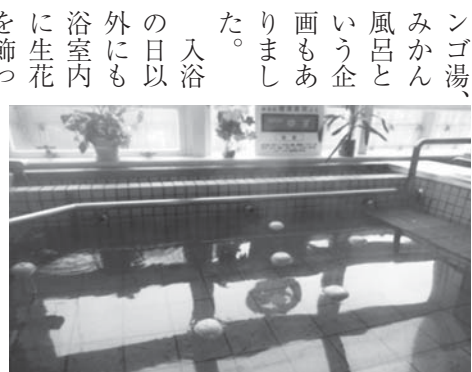
他にも、冬になじみのある甘い甘酒を夏場には、冷やし甘酒として提供。り



あじさいの花に囲まれての入浴



脱衣場の正月飾り



冬至といったらゆず風呂

今後も見える楽しみや驚き、入浴して気持ち良かったと言ってもらえる様な企画に職員一同取り組んでいきたいと考えています。又、それを楽しみに利用して頂ける方が増えてくだされば幸いです。

御利用者様方にも喜んで頂いており、笑顔で「今日のお風呂いいな」等のお声を頂き、ここを利用する楽しみにもつながっている様子を伺えています。

たり、秋には、実際に栗を拾い装飾したりなどと趣向を凝らしています。浴室の他にも脱衣場や待合スペースにも職員手作りの装飾を施しています。

を飾つ

入浴の日以外にも浴室内に生花

を飾つたり、秋には、実際に栗を拾い装飾したりなどと趣向を凝らしています。

風呂という企画もありました。

『日々是好日』なり

ケアハウス すこやか横手

ケアハウスでは、正月の三日は、皆が食堂に会しテーブルを囲み、新たな年に願いを込めて新年を祝います。テーブルを囲み、親交を深め、人との繋がりを感ずる事ができる一時です。毎日居室で食べている方々もお正月だけは、十五名全員で会食をします。

今年は、阿部理事長より「戌年に向け」年頭の挨拶を頂戴しました。当初は、緊張しながら耳を傾けておりましたが、戌年にちなんだことわざや冬の地域行事、正月に見る夢の話に切り替わると、いつの間にかフリートークキングとなり和気藹々と楽しい時間を過ごす事ができました。阿部理事長お忙しい中をありがとうございます。機会があればまた是非、お越しく下さい。さて、戌年も二月に入り季節行事である、

理事長より新年の挨拶

「節分」や「かまくら・梵天」など楽しみがやって来ました。ポカポカ「春」の陽気を待ち侘びて、各々が体力作りや認知症予防

に取り組む姿が見られます。そして日課として行っているラジオ体操を続けて、はや三年になり、「健康長寿」をモットーに励む毎日です。平均年齢八十四歳の方々の日常は、嫌な事や苦しい事が起きても、「ケセラセラ」。迎えが来れば断らず、「笑って付いて行きましょう。」「嬉しいことや楽しい事が起きた時には、「大いに笑ひ楽しみましょう」と言う。毎日と同じ事の繰り返しでも、「今日も一日、元気に過ごせますように」と無事を願う：「日々是好日」なり



いつも元気に バンザ〜イ！



女学校の同級生いつも仲良し♡

『百歳万歳』

特別養護老人ホーム すこやか大雄

大正七年は、米価が急激に上がって国民が困窮し、民衆の暴動に発展した米騒動があった年であり、また歴史的人物である原敬が内閣総理大臣に就任した年でもあります。第一次世界大戦が終結したのもこの年にあたります。

このような年（時代）に生まれたSさんは、この一月に百歳を迎えました。誕生日は、ボランティアの大正琴に合わせてハッピーバースデイトゥーユーを参加者全員で合唱し、その後、十号（直径三十センチ）の大きなケーキのローソクを吹き消して始めました。ケーキは参加者みんなとともにご馳走になり、ご家族とも一緒にお祝いをしました。

最近では、百歳もあまり珍しいことではなくなりつつありますが、やはり百歳のすごさを感じます。Sさんは耳が遠く、車いすを利用してありますが、筆談でも意思疎通ができ、車いすをご自分で操作して自由に移動します。細かなことは気にせずいつもひょうひょうとし、時には冗談を言って周囲を和ませてくれます。百歳になるとこの世界がどのような景色に見えるのでしょうか。何かにつけ右往左往している私たちを眺めて



お祝いのお花を贈呈



大正琴の演奏に合わせて
ハッピーバースデイトゥーユーを合唱

『地域とのつながり』

特別養護老人ホーム すこやか館合

私たちすこやか館合では、地域密着型の特養として、地域の方との交流の機会をもつように心掛けています。

その中の一つとして地域交流会があります。約二ヶ月に一回のペースで施設周辺の約百四十世帯を対象として、地域の方を施設へ招待する形で行っています。

これまでは、様々なイベントを通して地域の方と施設職員、入居者様が交流できる場面として開催してきました。

感染症予防や認知症を知って頂くための講座、地域の方と入居者が協力しながらの太巻作り、美容指導員に來所頂き、いきいき美容教室です。

地域の方に施設を知って頂く良い機会でもあり、「また遊びに來たい」という温かい言葉を頂く事もあります。

今年度は、ケアマネージャー、福祉レンタル業者の協力を頂き、福祉用具展示会を開催しました。施設周辺には、高齢者世帯や高齢で一人暮らしをされている方も多く「介護」や「介護用品」が身近に感じている方も多く、とても興味を示して下さいました。「もっと情報を教えてほしい」という率直な意見も聞かれました。



今後も、地域の方の声に耳を傾けニーズに対応した話題提供やイベントの開催をしていきたいと思っています。

『皆様の笑顔あふれる場所として』

横手市特別養護老人ホームシルバードーム いきいきの郷

いきいきの郷では年間を通して利用者の皆様に楽しんでいただけるようにと様々な催し物を企画しています。その様子をいくつかご紹介いたします。

一月四日、恒例となっている餅つき大会が行われ、ホールにはペタンコ、ペタンコと気持ちのいい音が響き渡りました。利用者の皆さんが臼を囲み、職員と一緒に杵を勢いよく振り下ろすと自然と笑顔があふれ、いきいきとした表情になっていました。つき上がった真っ白いつやつやのお餅はおしるこにしておいしくいただきました。

デイサービスでは季節の行事を大事にしており、行事に参加してもらうことで季節を感じてもらおうと八月二十一日に初めて納涼流しそうめんを行いました。全長八メートルの台を設置し、台を挟んで向き合いながら、勢いよく、大笑いしながら夏を感じてもらったことができました。とても好評だったので、来年も続けていきたいです。皆さんもよかったです。



はやく流れでこ〜い！



さあ、餅つき大会始まると〜！

『サンハイム夏の陣』男女宿泊体験記

母子生活支援施設 横手市サンハイム

サンハイムキッズの心と体を燃えさせる行事といえば・・・そう、宿泊体験です。それぞれの個性に合わせた活動を企画することができ、子ども達には魅力的な行事の一つです。

職員は子ども達からの期待という名の重圧に耐えながら（笑）、東奔西走、準備を進めてきました。八月初旬、舞台は鮭川村エコパーク。第一陣の男子班は、この上



「どんな風に染まるのかなあ」



「色んな素材があって楽しい〜！」

興味津々。小中学生が協力し合って作業する姿が印象的でした。第二陣の女子班は、木の枝やどん

ぐりなど自然の素材を使った可愛らしいフォトフレーム作りを体験し、個性溢れる作品が光りました。昼食のピザも本格的な窯焼きを体験でき、手作りの楽しさに浸った初日となりました。

男女ともに二日目は、恒例のプール。ウォータースライダーを満喫し、笑顔で行事を締めくくることができました。

振り返ってみると、行事を通して子ども達の魅力を再発見していることに気付かれます。学年を超えて協力する姿、一生懸命に取り組む姿、思いっきり楽しむ姿、・・・この時間だけはお母さん方に代わって一人ひとりの成長を目の前で見られることに、職員として心からの喜びを感じます。さて、今年の夏はどんな宿泊体験にしようか・・・あの笑顔の為に、

喜んで悩める日々を迎えたいと思います。



アグレッシヴに大自然を満喫中

『ドリームハウス地域交流』民生委員さんとのきりたんぽ作り

児童養護施設 横手市立県南愛児園「ドリームハウス」

愛児園では旧横手地区の民生委員の方々と、十一月にきりたんぽ作りを行っています。民生委員の方々と交流することで、子どもたちが「地域の大人とのつながり」を実感してもらえるように、との願いで始めたこの行事も今年で三年目を迎えました。

一年目は職員と子ども達、また民生委員の皆さんも手探りで作っていた感じはありますが、回を重ねる毎に慣れた手つきになり、段取りも良くなってきました。子どもたちからも「今年も作るんだよね?」「今年はいつきりたんぽづくろの?」と声が上がってくるようになりました。

この行事を通して地域の大人との「つながり」だけでなく、郷土料理に触れ、体験したことへの積み重ねが、子どもたちの「自分はやってることがある」と言う自信につながっていくのではないかと感じています。

今後民生委員の皆さまのご協力をいただきながら、続けて行きたいと考えています。



ごはんを「半殺し」にしています!



「半殺し」のごはんを「きりたんぽ」に形成していきます。



みんなで「いただきます!」おいしくて、お鍋からっぽ!!



「はないちもんめ」
「○○ちゃんがほーしい」



新聞紙を破って「えーいっ！」

の、リトミック・ムーブメント・運動・ルーのあるあそびなど室内を広くして体をダイナミックに使って行うものがあります。机上

で行っています。今日はそんな普段の活動をご紹介します。活動には、シール・描き・スタンブ・はさみなど主に机上で行うものと、リト

「ワンツースリー、ピッ！」午前十時、モモの家に元気な子どもたちの声が響き渡ります。朝の会のスタートの合図です。体操、手遊び、乾布摩擦、今日の活動・・・・と一日のメニューは盛りだくさんです。今年度も就学前六十名弱の子どもたちが在籍し、ご家族と通園しながら様々な活動を行っていま



ムーブメントあそびの1コマ。
笛が鳴るまでじーとね。

の活動では季節の題材を用いたり、工程表で手順が分かりやすくしたり工夫をしています。完成した時の誇らしげな子どもたちの表情は大変微笑ましいです。作品は廊下の「モモの家 ギャラリー」に飾っています。音楽を通して様々な力を育むリトミックあそび、全身を使って活動し五感を刺激して子どもたちの能力を育てるムーブメントあそびにも頑張っており組んでいます。少々ハードな内容もありますが、続けることで子どもたちの色々な動きが本当に上手になるのを実感しています。どの活動も家族や友だちと一緒に活動することが子どもたちの励みや自信、そして成長につながっています。

いつもみんなの元気と笑顔がふれているモモの家の普段の活動です。

ひまわり社では今年度より、カラオケ同好会を結成いたしました。同好会のメンバーは十一人。横手市駅南にあるカラオケバンバンにて、月に一回カラオケ大会を開催しています。日々の作業の息抜きに・・・と始まった活動ですが、今では利用者のみなさんにとっての楽しみの一つとなっています。



社のご利用者みなさんは音楽が大好きな方が多く、みんなが楽しめる活動として、今後もカラオケ同好会を盛り上げていけたらと思います。

児童発達支援事業 モモの家

障がい者支援施設 ひまわり社

『モモの家 活動の紹介』

『音楽のちから』

善意ありがとうございました

平成二十九年二月二日～三十年二月三十一日まで

法人の部

朝日総合株式会社様 (横手市神明町)
株式会社テラセキ様 (横手市朝日が丘)
羽後設備株式会社様 (秋田市泉中央)
久米一級建築設計事務所様
(横手市平和町)

すこやか横手

STクラブ横手様 (横手市南町)
茂呂第二様 (岩手県盛岡市)
藤倉忠彦様 (横手市大町)
高橋洋一様 (横手市神明町)
さくらタクシー株式会社様
(横手市駅前町)
横手ユネスコ協会様 (横手市杉沢)

すこやか大雄

工藤義和様 (横手市睦成)
村上勝秋様 (横手市大森町)
JA秋田ふるさと女性部大雄支所様
(横手市大雄)
田根森婦人会様 (横手市大雄)

すこやか森の家

秋田県立横手高校写真部様
横手ユネスコ協会様 (横手市杉沢)

すこやか館合

雄物川理容組合様 (横手市雄物川町)
吉田保育園様 (横手市平鹿町)
飯島トモ子様 (東京都)

いきいきの郷

石橋哲男様 (横手市増田町)

石垣正子様 (横手市増田町)

佐藤徳蔵様 (横手市平鹿町)

増田町婦人会会長 鶴飼美和子様
(横手市増田町)

亀田婦人会会長 藤原愛子様
(横手市増田町)

高橋儀一様 (横手市増田町)

ひまわり社

マックスバリュ東北株式会社様
(秋田市)

株式会社ワアルモード様
(横手市朝日が丘)

特別養護老人ホームさくら様
(横手市駅前町)

株式会社かんきよう横手支店様
(横手市横手町)

有限会社秋田かまくらミート様
(横手市横山町)

秋田県 阿桜園様 (横手市赤坂)

株式会社渡敬様 (横手市卸町)

株式会社ツルタック様 (横手市清川町)

特別養護老人ホーム憩寿園様
(横手市十文字町)

株式会社柴田畜産様 (横手市平鹿町)

ショートステイ清川の里様
(横手市清川町)

特別養護老人ホームビハーラ赤坂様
(横手市赤坂)

有料老人ホームかまくら二号館様
(横手市横手町)

介護老人保健施設やすらぎの苑様
(横手市杉沢)

第十三回セミナー

「福祉とひろば」

第十三回セミナー「福祉とひろば」が、平成二十九年十月十八日(水)に松興会館で、法人関係者、NPOや行政関係、一般市民の方々等八十名の参加で開催されました。

今回のテーマは、「子どもを取り巻く現状、私達にできること」でした。「六人に一人の子どものが、相対的貧困状態にある」といわれる中、「フードバンク」「子ども食堂」等、目の前の課題に具体的に取り組んでおられる地元秋田のNPO団体の方と、課題を抱える子どもと家族と日々接していらつしやる専門職の方から、今、実際にどんな課題が存在し、どのような取り組みが行われているかをみんなで確認し、考えていきたいと企画しました。

講師のNPO法人秋田たすけあいネットあゆむ理事長保坂ひろみ氏、NPO法人あきたキッズネットワーク理事長奥山ひとみ氏、横手興生病院臨床心理士松田陽一氏の三名から、統計や具体的な事例から、現在の子どもとその家族の置かれている現状と支援について、食糧支援だけでなく、制服のリユースや、子どもの居場所づくり、「経済的な貧困」に限定されない、子どもを含む全ての人の集いの場づくり、課題を抱える子どもとの向き合い方の報告がされました。

参加者からは、「現実の様々な問題が知らないことばかりだったことが恥ずかしくなりました。もっと周りに目を向けて関心を持つことが大切だと感じました。」「自分にも何か出来ることはないかと考えさせられた」等の感想が寄せられ、今後の広がりに期待と手ごたえが感じられました。



編集後記

雪解けの季節になれば、あれほど降って大変だった大雪のことも少しづつ忘れてしまい、心地よい春の季節を迎え、そして暑い夏が来て、その夏が過ぎ、紅葉の季節が終わると、やがて寒い冬が訪れる。季節の四季は何度も巡ってくるが人生の四季は一回限り・・・だからこそ日々充実した人生を送らねば・・・